

2019年度
学校関係者評価委員会第2回議事録

日時：2019年11月13日（水）18時30分～20時00分

場所：東京 YMCA 医療福祉専門学校 15 教室

出席者：吉野たけし氏 小泉 昌広氏 永井 純氏 山野 晴雄氏
列席者：村上 剛 倉持 有希子 中浦 俊一郎 八尾 勝 林 恵子

I. 聖書日課

Tokyo YMCA Daily Message の本日の聖句とその解説を村上副校長が朗読した。

(詩篇 58編12節)

II. 議事 吉野議長の司会により議事が進められた

★記録内の下線は次回につなげるアクションに係る部分★

1. 前回の「記録」と「まとめ」の確認

村上校長が前回の記録を読み上げながら委員からいただいた意見の確認と学校としての取り組みについて説明を行った。

① 日本人学生の確保について

高校訪問やガイダンスを通して1, 2年生のうちから介護を選択してもらえるように努力している。分野の良さとYMCAの良さを上手に情報提供していきたい。年度末へ向かっては看護から介護へ進路変更する生徒の動きを見落とさないように気を付けたい。

② SNSの利用について

ラインを11月から導入できるように準備を進めている。

③ 留学生の生活スケジュールの管理について

積極的に生活管理にも関わっていききたい。

④ AO入試受験者の高校との連携について

エントリーシートの中に高校からの承認印の欄を作り、高校の先生も情報を共有していることを確認した上でAO入試を進めていくこととする。

⑤ YMCAの強みを発信できているか?について

写真、保護者の声、教員からの意見、分野の説明のちらしを作成準備中である。

⑥ 新しい付帯事業の展開について

現在はその発想は無い。現在行っている事業が安定して運営できるように努力したい。しかし法人全体で新しい視点を持つことも大切だと考えている。

⑦ 介護の悪いイメージの払拭について

一つの学校でできることは限られているが、YMCAの強みを高校の先生やオープンキャンパスに参加する生徒たちにしっかり伝えていきたい。

続いて各学科長よりPDCAの「A」アクション案について述べられた。

介護福祉科アクション案 学科長 倉持有希子

留学生は日本語力のレベル差がそのまま学修成果にも影響することが時間が経てば経つほどはっきりしてきた。実習を通して利用者と関わる中でどんどん伸びて行く留学生もいれば、ほとんど記録を書けない留学生もいる。またレベルの低い留学生に合わせて授業を進めていくことで、できる日本人学生がその低いレベルで安心してしまい努力しないという別な課題も見えてきた。今後の対策としては留学生のレベル分けを行いさらに伸ばしていくグループと基礎（日本語）をやるグループとに分け、日本人学生も含めもっと彼らの力を伸ばしていきたい。コミュニケーション力のある留学生は日本人との交流を通して心を豊かに人間的成長もさせていきたいと考えている。留学生が入学したことを学科全体のプラスにもっていききたい。また作業両学科の学生にも留学生の存在がプラスになるような試みも行ない、留学生にとっても学校全体にとっても意味のある共生集団でありたい。日本人の学生も含めてであるが、「指導が入るタイミング」と言うのが個々にある。その機会をしっかりとらえてタイミングよく適切な力で指導することで驚くほど伸びる事があるので、常に学生一人一人をしっかりとウォッチしてゆきたい。

作業療法学科アクション案 学科長 中浦俊一郎

①国試対策

昨年度からスタートさせた基礎3科目（解剖、運動、生理）を重点的に学習させることが効果として始めている。国試勉強の大枠を作り、「全員が当たり前に取り組むものだ」という雰囲気の中でインプットからアウトプットへと積み上げていく方式である。専門科目の授業の中で基礎的な質問を投げかける事をしたら例年より理解度が高い事も感じられている。要所要所で教員との口頭試問を行うことで学生との関わりが深くなり、学生の問題点も明確になってきている。継続して行っていきたい。

②AO入学者への事前学習

初回は生理学実習の授業に在校生と一緒に参加させ、見学の予定だけだったがそれに留まらず実習にも関わらせてもらった。このような機会は新入生の入学への不安感を少しずつ解消するようだ。今後も更に教員や在校生との交流の機会をもつ予定。

③作業療法を広く知ってもらう

高校の教員、保護者、社会人、高校生向け（セグメント別）の広報資料としてのちらしを作成中。対象別にアピールする内容も変える。パンフレット送付時、ガイダンス、オープンキャンパス、高校訪問など目的別にも使い分けていきたい。公開講座を企画して地域とのつながりや、広くYMCAの存在とOTについて知ってもらいたいと考えている。11/30には「手の器用さを育む遊び方を知る！」というテーマで発達領域での公開講座を予定し、市民他に広く周知している。

上記のアクション案を受けて委員から出されたご意見及び質問は次の通りである。

<ご意見>

吉野委員 働き方改革が推進されている今、教員達がいかに効率よく学生と関わっていくかを考えていく必要がある。実習直後は学生達に教員のことばが伝わりやすいと先程報告があったが、このような学習のタイミングを逃さずキャッチし、教育の機会として逃さず活用することは大切である。教員のプロフェッショナル度の高さも求められる。

山野委員 留学生の入学に関しては、一定以上の日本語力があることを守ることは教育的な視点から考えても重要であると思う。そして留学生を受け入れたことを全体にとってのプラスの効果、相乗効果に持って行って欲しい。

小泉委員 留学生が増えるとそれがYMC Aの特色ともなる。今後も暖かい人間がのびのびと育つYMC Aであり続けてほしい。

永井委員 私はOT科夜間部の1期生だったので先輩がいなかった。昼間部の先輩からのアドバイスでほんとした経験が何度かあることを覚えている。在校生のタテのつながりや教員との関わりは大切で、それは次の学年にも引き継がれていくであろう。

<ご質問>

質問 高校訪問をして、介護、作業療法に進みたいという高校生はどのくらいいるのか？

回答 とりあえず大学に進学して、その後分野選びをしようという志向が強いと感じる。専門学校の良さを理解してくれている先生は少ないような気がする。(村上)

質問 通信教育高校との連携(年間を通して20回程度福祉、リハビリの授業をYMC Aが担当)はどんな状況か？

回答 通信制高校なので毎回授業に参加する顔ぶれが変わったり、参加する人数も数名と少ない。労力が大きい割に効果(入学につなげる)はまだ目に見えてこない印象である。(村上)

山野委員 通信制高校には問題を抱えている生徒が多いが、学力の高い生徒も混ざっているので介護やOTに進みたいという生徒もいる可能性がある。先生達と上手にコンタクトをとって情報収集をすると良いと思う。

質問 高校生たちはOTとPTの違いはわかっているのか？ 多くの高校生が安定志向にあるのであれば、医者は無理でもOT、PTならという発想は出てくるのではないかと？

回答 理解していないことが多い。個人的には「16歳の仕事塾」を通してOTを広く伝える努力はしている。残念ながら高校生は一般企業に就職の方がOTになるより安定イメージが強い。(中浦)

吉野委員 必ずそれぞれの分野にその分野の「楽しさ」がある。教職員はその「楽しさ」を上手に発信していくことに力を入れていくと良いと思う。

山野委員 発信方法は色々あるのだから工夫をすると良い。学生をうまく使うのひとつの方法。

小泉委員 卒業生などOBの力をもっと使ってほしい。在校生との交流の機会も作ってほしい。

永井委員 「その職業を楽しんでいるところを見せる」のは大賛成。AIが人間に代わって仕事をする時代が来ても、介護、看護、OT、PTは残る仕事である。医療現場、介護現場でいきいきと働いている専門職を見てもらえる機会があると良いと思う。

閉会のあいさつ

村上校長より、今年度も本委員会において数多くの示唆をいただいた事への感謝、今後これらを学校改善に結びつけたいと思っている旨、本日で2019年度の学校関係者評価委員会は終了することが述べられ、委員の方々への感謝の辞が述べられて閉会となった。